

1. 活動の概要

7月6日(金)、隠岐の島町立都万小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、隠岐の島町教育委員会の職員さんに小学校周辺の文化財について説明をしていただきました。次に、町内から出土した遺物について実物を見ながら説明を受けました。志津見ダムを造る前に発掘した遺跡から発見された縄文土器には時代の呼び方の由来となった、縄文で飾られていることを聞きました。

それから埋蔵文化財調査センターの職員が古代の鏡について説明をしました。鏡のレプリカをみて、顔が映ることを確認したり、意外と大きいことに感心していました。

そして、いよいよ「鏡作り」に取り掛かりました。鍋で溶かした低融点金属を鋳型に流し、できた鏡を紙やすりや磨き粉を使って磨くとピカピカに仕上がりがりました。

2. 活動の様子



町内の遺跡について学びました



本物の遺物に感動！



頑張って磨きました

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

★一番心に残った事は？

- ・金属を溶かした工程、隠岐にも古墳があること。
- ・隠岐の遺跡についての話。
- ・鏡を磨いたのが楽しかったので心に残りました。

★もっと知りたい事やほかに体験してみたいこと

- ・勾玉作り
- ・古墳から見つかった装飾品を作ってみたい
- ・まが玉や黒曜石など島根県のことをもっと知ってみたいと思いました。

2) 担任の先生から…

- 子供たちが話を集中して聞いており、興味を持って作業を懸命にやっていた。
- 都万地区にも古墳が多くあることがわかった。
- 地元の古墳の大きなパネルが多めにあれば、子供たちがもっと興味を示したと思う。

3) 埋文センターから

遺跡地図によって学校の周辺に多くの遺跡があることを知った児童のみなさんは驚きの声を上げていました。また実際の出土品を間近に見学して驚いたという感想が寄せられました。

鏡作りでは、慣れない作業で苦戦する児童もいましたが、頑張っって時間内に完成することができたようです。金属をとかし、型に流し込み、研磨して仕上げるという鋳造の工程を体験し、古代の鋳造品に関する理解を深めることができたのではないのでしょうか。